

長崎県土木部砂防課 ワークショップ(7/23)

長崎県土木部砂防課より講師をお招きし、1・2年生を対象に土砂災害対策ワークショップを実施しました。土砂災害に関するこれまでの事例や、土砂災害の兆候や特徴についての講義を聞いた後、グループごとに、「いつ・どのタイミングで・どのような行動をするべきか」について意見交換をし、それを全体に向けて発表しました。講義もグループワークも真剣に取り組み、今後の生活に活かしたいという声が多く聞かれました。



【生徒の感想】

自分の自宅周辺が安全な場所なのかを調べて対策や行動に移すことを今回の講義で知りました。土砂崩れは発生してから崩れるまで、約25秒間しかないことを知り、驚きました。

土砂災害は異常な山鳴りやひび割れなどの兆候が最初に起こるので、こういう現象があったら早めに逃げる準備をしようと思いました。グループワークの発表はみんな早めに逃げることを意識していた。

自分の自宅近くには山はありませんが、おばあちゃん家が山にあるので、今回の講義を活かして避難のことを考えていきたいです。

がけ崩れの発生から25秒で、土石流が流れてくるので、発生して避難しても遅いから、その前の前兆の音や川の様子を見て早めに避難することが大切だと感じました。水など避難グッズを準備することはできているので、良いと思った。

自分たちの班では出なかったが、他の班が土砂災害が原因で火事が起こるかもしれないという意見を出していた。周り話し合いながら、避難経路や防災バッグの確認をすることがとても大切だと思いました。家族でもう一度話し合っ、災害に備える必要があったと思いました。